


9月8日 逍遙 

9月とはいえ昼間はまだ夏色。歩道の照り返しは、背の低いワタシにはまだきついで、今日の午後の散歩先はすぐ近くの、芝生と木陰の多い「探勝園」にします。お店の前のレンガ調の歩道を、島津斉彬を祀る照國神社の方に陰を伝ってトコトコ歩いていくと、程なく右手に高々と建つ銅像。と言っても、ワタシ達猫の視力は人間の十分の一ぐらいしかありませんから、動かない銅像はボーッとしか見えません。逍遙館長さんは、そんなワタシ達猫の特徴を、どうも、何かじっと意味ありげに見つめてると思い込んでいるようですけど。逍遙館長さんの話では、ここは鹿児島城の二之丸庭園だったところで、斉彬の曾祖父・重豪の時に造られ(当時「千秋園」)、斉彬の父・斉興の時に手が加わり「探勝園」となったのだそう。ここに建つ銅像3体(手前から唯一洋装の忠義[帽子の下は鬚?])、その右手奥に久光、一番奥に斉彬)を前にすると、変革の時代における揺らぎのない強いリーダーシップの必要性を痛感するんだよなあ、と逍遙館長さんはまた一人で熱く語っていました。

次回「すず 探勝園を語る、のころ」

探勝園に建つ銅像を  
前にしてボーッと、のころ

